

横浜市戸塚区民文化センター さくらプラザ 情報誌

SAKURA

Since 2013



Vol.25
9・10月号

私は、「わたし」に会いにゆく。さくらプラザで、逢いましょう。



東京六人組

音楽の良さをそのまま伝えたい—

== INDEX ==

Pick Up Artist

若林 顕／東京六人組
ハルモニア・レニス
トロンボーンカルテット 虎徹

『東へ西へ』

連載

なるほど！ THE LEAPS の戸塚お稽古道場
ヨーロッパ演奏紀行
吹奏楽の達人
男は背中で物語る 戸塚見返親仁
出張！ 戸塚新聞



ピアニスト わかばやし あきら 若林 顕

日本を代表するヴィルトゥオーゾ・ピアニストが語るピアノニズム

2014年から始まった「ベートーヴェン ピアノ・ソナタ全32曲」シリーズを自らプロデュース、そしてご出演いただいているピアニストの若林顕さんに、永きにわたったこのシリーズへの想い、最終回に向けての聴きどころなどをお伺いしました。ピアノを学んでいる方にも、これからのヒントになるお話がたくさんあります。是非、会場で若林さんの演奏をお聴きいただき、若林さんの語る“オーケストラの響き”を肌で体感してみてください！

—ベートーヴェン全曲演奏シリーズの企画を受けたときはどのような印象を持たれましたか？

若林 顕(以下、略):このお話をいただいたのはさくらプラザが閉館する前でした。ベートーヴェンの全曲演奏と銘打ったものはこれまでも何度か行ったことはあったのですが、これだけ時間をかけているのは初めてです。

—2014年にシリーズが始まり約3年が経ちましたね。

同じ会場、同じピアノで定期的に演奏することで、毎回工夫や研究をしながら演奏しています。そのときそのときの発見があるのですが、同じ条件だからこそ違いが分かるんです。「前はこうだったから今回はこういう感じ」という比較をしながら、非常に勉強になっています。

—ベートーヴェンのピアノ・ソナタとともに他の作曲家の曲もプログラムに組み込むというスタイルは初めてのことですが、どのように選曲されていますか？

それぞれの作曲家ならではの作風があり、それがベートーヴェンとは異なるものでも、必ずベートーヴェンから影響を受けていると思います。ある種のピアノニズムの完成を見た作曲家だったので、いろいろな作曲家・作風に分岐するというのは可能です。どの曲でも違和感はないような気がしますね。

—コンサートの中で、作曲家がベートーヴェンからショパンに変わるときなど、曲と曲との切り替えをとて意識されているように感じました。

音楽の切り替えですね。音の弾き方を簡単に操作するというのはできませんし、僕はあまりそういうのは好きじゃないんです。あくまでも僕の持っている音楽に沿って、自然に自動調整していくというのが理想だと思っています。



ただ、音楽をイメージし直すことは重要ですね。ベートーヴェンと同じようにショパンを弾いたら、音楽が全然生きないので。一音入魂と言いますが、ベートーヴェンにももちろん色とりどりのカラーがたくさんないといけませんし、キラキラしなきゃいけない。真面目一辺倒というわけでは全くないです。ショパンを弾くにも構成力がすごく必要ですから、ベートーヴェンを弾いているうえでショパンも弾く、というような音楽家としてのパレットを広くするというのはとても重要です。ベートーヴェンを起点にいろいろな作曲家に分岐し、またベートーヴェンに戻るといっての繰り返しこのシリーズの中で、非常にいろいろなものを見つけられたような気がします。

—1時間のコンサートなので休憩がなく、とても集中力があるのではないですか？

1時間なので一気に弾けていますよ。それに、会場には100%興味を持って来てくださっている空気が充満していて、リピーターの方もたくさんいらっしゃいますから、非常にアットホームな空間の中演奏しています。20時開演というのも新鮮ですね。あと、2ヶ月に一回というのは案外すぐ来ちゃいます(笑)。

—シリーズが始まる前の2013年のインタビューでは、「ベートーヴェンを演奏するときは、特に強い想いを持たないと演奏できない」とおっしゃっていましたね。

どの曲もそうだと思いますが、非常に強い念を込めて弾いていかないと、曲に入っていけません。気楽に弾くことではないのですが、より一層、一音入魂で紐解いていかないと、曲負けしてしまう感じがしますね。念の込め方によって演奏が変わってきちゃうので、演奏者の力量、姿勢、ポリシー……そういうものがすべて出てきてしまう。ベートーヴェンはそれがすごく顕著に出ますね。

—シリーズの中で一番大変だった回はありますか？

これはもう毎回大変で、少し楽だったなんていうときは一回もなかったですね(笑)。ベートーヴェン ピアノ・ソナタの中でも、弾く回数が多い曲やあまり弾かない曲というのがあるんですよね。有名な「熱情」「月光」「悲愴」はたくさん弾いていますが、毎回初めて弾くような気持ちで原点に立ち戻り、見直す、という作業をしています。ですから、どの回も新鮮な姿勢で臨めましたね。

—リハーサルでは、奥様でありヴァイオリニストでもある鈴木理恵子さんも、毎回立ち会っていらっしゃいますね。おふたりで音楽を作り上げているように感じました。

同じ条件でずっと聴いてもらっていますね。他のホールでの公演のときもほぼ聴いてもらっています。逆も同じですね。彼女の助言がなければ僕の演奏はまったく成り立たないと言ってもいいくらいです。彼女はヴァイオリニストとしても天才的で、オーケストラを知り尽くしています。ピアノはオーケストラそのままなので、そういう音楽の観点から非常に的確なことを言ってくれます。とても有り難いですね。

—“オーケストラ”というキーワードが出ましたが、若林さんのプロフィールの中で「オーケストラに匹敵する響き」とありますね。

ちょっとおこがましいですけど(笑)。21才のときにNHKの「若い芽のコンサート」でNHK交響楽団とコンチェルトを演奏する際、インタビューを受けました。そのインタビュー映像を最近観ましたが、まあ生意気なことを言っているんです(笑)。「オーケストラみたいに弾きたい」と。オーケストラを意識していることについては、昔から微塵もブレずに演奏してきたんだと思います(笑)。

—“オーケストラの響き”とは、どのように意識されているのでしょうか？

例えばベートーヴェンの第九番(リスト編曲)を演奏するときは、ピアノ曲ではないので考え方が違います。ですから、きめ細かく練習し、いろいろと考え抜いたりするように意識しています。ピアノ・ソナタの場合は音楽に沿って、自分はどういう風に表現したいのかという想いを、萎縮せずに、第九を弾くときのように全開で音楽に立ち向かう。ベートーヴェンに限らず、ショパンでもそうですが、そこに沿った形での音楽作りをしていきたいと思っています。

—「なりふり構わず、すべてを出し切る」演奏を意識されているというお話も以前していただきましたね。

全身全霊とは言いますが本当に難しいことで……言うのは簡単ですよ(笑)。考えを整理するのが大事です。いつもそれを心がけていないと、パターン化したピアノに陥ってしまうので。そのために、自分にとって助言者というのは必要不可欠なのです。過去のピアニスト、ヴァイオリニストでも必ず信頼できる助言者がいたと思います。自分の中だけの正しいことをやってしまうと、なかなか難しいですね。僕の場合は鈴木理恵子や調律師さん、レコーディングエンジニアの方など、とてもスーパーな人たちに囲まれていることが奇跡で、幸せだと感じています。

—最後に、本シリーズの最終回(アンコール公演)のプログラムについて教えてください。

「田園」はリストのピアノ曲用(オーケストラ曲)の中で、一番の飽和状態。もともとはオーケストラの曲ですが、最小限



の厳選された音を用いて、あたかもピアノ曲かと思ってしまうようなクオリティの高い傑作です。オーケストラの音が聞こえてくるような気がします。あまりライブで弾かれる曲ではないと思いますので、是非聴いていただきたいです。

—とても楽しみにしております。ありがとうございました。
(取材・文:石村 里美/インタビュー写真:桑田 春花)



若林 顕セルフプロデュース
ベートーヴェン ピアノ・ソナタ 全32曲
ラストシーズン

Vol.21
2017年9月29日(金)20:00開演(19:30開場)
最終回(アンコール Vol.3)
2017年11月10日(金)19:00開演(18:30開場)

*詳細は裏表紙をご覧ください。



若林 顕 Akira Wakabayashi (ピアノ)

日本を代表するヴィルトゥオーゾ・ピアニスト。17歳で日本音楽コンクール第2位。東京藝大で田村宏氏、ザルツブルク・モーツァルテウムとベルリン芸術大学院にてハンス・ライグラフ氏に師事。1985年ブゾーニ国際ピアノコンクール第2位、1987年エリーザベト王妃国際コンクール第2位受賞。2002年カーネギーホール/ワイル・リサイタル・ホールでリサイタル・デビュー。ベルリン響、サンクトペテルブルク響等にソリストとして招かれるほか、室内楽ではK.ライスター、ライブツィヒ弦楽四重奏団と共演するなど幅広く活躍。桐朋学園大学・大学院特任教授、国立音楽大学招聘教授。

オフィシャルホームページ
<http://www.wakabayashi-akira.com/>



東京六人組

上野 由恵(フルート)、荒 絵理子(オーボエ)、金子 平(クラリネット)
福士 マリ子(ファゴット)、福川 伸陽(ホルン)、三浦 友理枝(ピアノ)

アンサンブルには1人では味わえない面白さがある

東京の各オーケストラの首席奏者やソリストとして活動する同世代のメンバーで結成された東京六人組。ソロとはひと味違う、アンサンブルの魅力をたっぷりと語っていただきました!

—“東京六人組”というグループ名はどのように決められましたか?

上野 由恵(以下、上野):みんなで集まって横文字のかっこいい名前を考えていたのですが、なかなか決まらなくて……。最後の最後、東京駅の改札で別れるときに急にひらめいたんです。「東京六人組は?」って(笑)。

三浦 友理枝(以下、三浦):「フランス六人組」や「ロシア五人組」という言葉が音楽用語にあり、私たちにとっては聞き馴染みのある言葉だったので、グループ名を考えるときには候補にあったのですが、結局立ち話で決まっちゃいましたね(笑)。

上野:みんな活動拠点は東京ですが、実は“東京出身”のメンバーは6人中ほとんどいないんです(笑)。

—それぞれソロでも活躍されていますが、アンサンブルで演奏される時に意識の違いはありますか?

福士マリ子(以下、福士):ソロのときは何から何まで自分次第で、1人ですべてをこなしていく感じですが、アンサンブルのときは、自分が今どのような役割を担っているんだろうということを考えながらも、全体も見渡して、とにかくアンテナを張り巡らせています。1人では味わえない面白さがありますね。

—木管六重奏ですが、なぜ金管楽器のホルンが入るのでしょうか?

福川伸陽(以下、福川):今回の木管六重奏からピアノを除いた木管楽器5人の編成で、木管五重奏というのがあります。“弦楽四重奏”というスタイルができた時代(バロック晩期)に、“管楽五重奏”というスタイルも登場しました。その時代のオーケストラの管楽器の種類は、フルート、オーボエ、クラリネット、ファゴット、ホルンの5つの楽器なんです。トランペットやトロンボーンといった金管楽器も当時はあったのですが、あまり“管楽器”という考えがなかったようです。というのも、トランペットは宮廷の楽器で、トロンボーンは教会の楽器でしたので、“オーケストラの管楽器”という感覚がなかったと思います。日本だと木管五重奏と訳されますが、海外では木管、金管の区別は特にないんです。これがホルンが木管五重奏に含まれている理由ですかね。

—それぞれの楽器の特色を教えてください。

金子 平(以下、金子):“重奏”というので、すべて同じ楽器にそろえることが多いですね。今回の六重奏は種類もですが、発音体(※)もバラバラです。

上野:フルートは発音体を持たないので、空気の振動で音を出します。



(左上より時計回りに)
金子 平、福川伸陽、福士マリ子、
三浦友理枝、荒絵理子、上野由恵

荒 絵理子(以下、荒):オーボエとファゴットはダブルリードといって、2枚の葦(あし)を重ねて、それらを振動させて音を出します。はっきりとした音色がしますね。

金子:それに比べるとクラリネットはリードが1枚なので、やわらかい音が出ます。

福川:ホルンは唇を震わせて音を出します。このように発音体が違うので、それぞれ得意・得意な部分があるんです。

例えば、フレーズの頭などのニュアンスを合わせる時に、「メロディーがクラリネットだから柔らかく入ろう」「ここはオーボエが主役だから軽やかに演奏しよう」など、楽器の枠を超えながらアンサンブルをしないといけないので、難しさもありますが、それがとても面白いんです。

※それ自身が振動して音源となるもの。弦・リードなど、音を発する本体をいう。

—ピアノはどのような役割をしていますか?

三浦:木管五重奏の編成だとどうしても低音が少ないので、広い音域をもつピアノで補います。低音が充実すると、全体の響きの収まりがとても良くなります。ですから、オーケストラの曲を演奏するときは、木管の5人で演奏しきれない部分を一手に引き受けます。縁の下の力持ち、ではないですけど……(笑)。でもそんな感じですよ。

—三浦さんにお伺いします。さくらプラザのピアノはいかがですか?

三浦:私はさくらプラザの2013年の開館時に、ホールのピアノの弾き込みをさせていただき、さらには開館記念セレモニーの時にも演奏しているので、最初の頃のピアノを知っているのですが、4年が経ち、たくさんの方に弾かれていくにつれて、どんどんピアノも音を出すことに慣れてきているな、と感じました。

最新CDの録音で使っている間にもどんどんまとまりのある音がするピアノになってきたなと思いました。11月のコンサートが楽しみです。

—さくらプラザの11月のコンサートのプログラムについて聴きどころを教えてください。

三浦:実はチラシに載せているプーランクの六重奏曲と、ブラームスのハンガリー舞曲集(抜粋)以外のプログラムはまだ考えているところなんです。私たち東京六人組がさくらプラザに来ることが初めてなので、まずは戸塚の皆さまに知ってもらいたい、というのが一番です。1枚目のアルバムと、現在録音している2枚目のアルバムの中からそれぞれ選曲をして、とても盛りだくさんなプログラムになる予定です。

金子:聴きどころはやはりプーランクかな。木管六重奏の編成では有名な曲です。特に最後! 静かなところからだんだん広がって行って、バァン! と終わる。ぜひその余韻をお楽しみください。

荒:ブラームスも聴きどころ満載です。もともとは管弦楽用に書かれている曲を木管六重奏という少ない編成で演奏するので、メロディーやハーモニー、伴奏など、普段オーケストラの中にいるときにはしないことをそれぞれが担うこともあります。1人ひとりの役割がものすごく多くて大変なんですけど……。この6人がそろわないと絶対に成り立たない、この6人だからこそその聴きごたえのあるプログラムです。

—最後に戸塚のお客さまへメッセージをお願いします。

上野:それぞれの楽器の音色を楽しんでいただける機会です。一度に6度おいしいコンサートになると思いますので楽しみにしてください。

福川:楽器は6つですが、個々の音色やその組み合わせ、また、楽器の組み合わせなどで無限大に近い音が聴けるかと思えますので、そこを聴いていただきたいと思います。



荒:私は東京交響楽団に所属しているのですが、主に川崎で活動をしています。戸塚に近いので、とても親近感があります。当日は楽しんで演奏したいです。

福士:異なる5つの管楽器の音色と、バラエティに富んだプログラムで、響きの変化をより一層楽しめるのではないかなと思います。

金子:木管六重奏の編成で作曲された曲はとても少ないのですが、とても魅力がある旋律で僕は大好きなので、戸塚のお客様にその良さをそのまま伝えられたらいいなと思っています。

三浦:開館当初からご縁のあるホールに自慢のメンバーをお連れすることができました。珍しい編成のアンサンブルですが、オーケストラを凝縮したような迫力と色彩感をお届けできると思いますので、ぜひたくさんの方に聴いていただきたいです。

—ありがとうございました。

(取材・構成/山上 由布子、
インタビュー写真/板澤 桂子)

東京六人組コンサート 室内楽の調べ
2017年11月5日(日)14:00開演(13:30開場)

*詳細は裏表紙をご覧ください。

好評
発売中

さくらプラザホームページで、東京六人組の演奏の様子を公開中!



東京六人組

東京の各オーケストラの首席奏者やソリストとして活動する同世代のメンバーで結成されたアンサンブル。

2015年10月にオクタヴィアレコードから発売されたデビューCDはレコード芸術誌で「特選盤」に選出され、各方面で高い評価を得る。2015年11月サントリーホールブルーローズでのデビュー公演以来、杉並公会堂、目黒パーシモンホールなどで依頼公演を重ねる。2017年秋には2枚目となるアルバムを発売予定。

オフィシャルFacebook
<https://www.facebook.com/tokyo.sextet/>

「甘美なるイタリア・バロック」出演
レ・タンブル ハルモニア・レニス
Les Timbres & Harmonia Lenis
ヨーロッパ各地で活躍の幅を広げる日欧合同アンサンブル

ブルージュ国際古楽コンクールに優勝しフランスを中心に活動するレ・タンブル(川久保洋子、ミリアム・リニョル、ジュリアン・ヴォルフス)と、日本を拠点に活動するハルモニア・レニス(水内謙一、村上暁美)。
日欧合同アンサンブルとして活躍する5人の中から、今回は代表してハルモニア・レニスのおふたりにお話を伺いました。

—おふたりはいつから一緒に演奏活動をされているのですか？

水内 謙一(以下、水内):村上さんと知り合ったのは大学生時代ですね。日本では別の大学でしたが、ドイツ・ケルン音楽大学で一緒だったんです。

その頃レ・タンブルはリヨンで活動していたのですが、(ヴィオラ・ダ・ガンバの)ミリアムがリヨン国立高等音楽院からケルンに交換留学に来て、一緒に演奏をするようになりました。

そのような縁で、僕らをリヨン国立高等音楽院に招聘してください、2011年に初めてこの5人の演奏会が実現しました。めずらしい編成ですし演奏する側としてもとても面白い。「ぜひ続けたい!」という話になり、日欧で活動を続けています。

—メンバーについてお聞かせください。

村上 暁美(以下、村上):みんな 内に秘めたドラマティックなものがあるんですが、外見(そとみ)はフレンドリーですね。ミリアムとジュリアンは、日本語で話しかけたとしても、どうかして日本語で答えようとしてくれるんですよ。とてもコミュニケーション上手ですね。

水内:コンサートでも一言話してくれたりしますね。

村上:フランス出身のミリアム、ベルギー出身のジュリアン、日本人だけどフランス在住の川久保さん……メンバーが多国籍ということも、わたしたちのユニークなところですね。

水内:僕たち(水内さんと村上さん)とミリアムはドイツ語で話し、レ・タンブルの3人はフランス語で話します。ジュリアンと僕たちで話す時は英語を使います。

村上:全員で話す時は英語にしようとするのですが、だんだん自分の得意な言語になっていき、最後はフランス語になることが多いです(笑)。

水内:話していると言語が混ざったりもしますね。

村上:フランス語でずっと話していたのに、語尾だけ「でしょ?」と日本語になったり(笑)。



水内 謙一さん(リコーダー)と村上 暁美さん(チェンバロ&オルガン)



水内さんのリコーダーを見せていただきました!

水内:「ちょっと」というフレーズはみんな知っているのですが、そこだけ日本語になったりも(笑)。

村上:真面目なんです、どこか遊び心があるメンバーです。

—みなさんと撮った写真は、とても楽しそうですね。

水内:いつも和気あいあいとしていますね。本当に仲が良く、ヨーロッパツアーの時は合宿のようにみんなでご飯を作って食べています。移動も一緒だし、1ヶ月くらい寝食を共にして各地で演奏するので、とても楽しい時間です。

村上:ヨーロッパではホテルではなく、家を一軒借りることもあるんですよ。

1人が演奏に出かけている時には、残ったメンバーでバーベキューをしたり(笑)。

水内:ヨーロッパの音楽祭では、ボランティアの方たちがご飯を作ってください、終演後、演奏者とお客さんが一緒になってご飯を食べるんです。そこでいろいろな方とお話をしたりして……。

村上:ボランティアの方のご自宅に、何人かで分かれて泊めてもらうこともあるんですよ!

水内:ご家族とも仲良くなれるし、毎回とても楽しいツアーなんです。

—ツアー中は、何で移動されているのですか？

水内:大型バンを借りて移動していますね。チェンバロやオルガンなど楽器も自分たちで積めて運んで。運転もメンバーがします。1日中移動して夜中に到着する……なんてことも。なんだかロックバンドみたいですね!

村上:忙しくても遊ぶことは忘れません。出発前で急いでいるのにプールに入ったり(笑)。1日休みがあれば、みんなで山に登ったり、カヌーに乗ったり……。



3000m以上の山々がそびえるエクラン山脈(エクラン音楽祭)



南フランスの避暑地ラポームにて……音楽祭終了後にカヌーへ!

水内:以前スイスの近くで演奏した際に、会場のそばに山脈がずっと続いていました。地元の方に「あのあたりまで行くと面白いよ」と教えてもらって。「食事が終わったら行ってみようか!」と盛り上がり、みんなで行きました。その夜、別の会場で公演だったんですけどね(笑)。

—バロック音楽の魅力を教えてください。

水内:バロック以降、例えばヴァイオリンの弦はスチール製に、チェンバロはピアノにと、より大きな音が出るように楽器は進化していきました。

バロック時代の楽器は自然界にあるもので作られていて、僕は楽器そのものの音色がとても好きなんです。素朴だけど、人間の等身大の感情が伝わる楽器だと思います。そして、細かいニュアンスが聞き取れる会場で、お客さまと近い距離で演奏するというのが、とても魅力的な音楽です。

村上:弦は羊の腸、弓は馬の尻尾などと、生き物からできている楽器なんですよ。だからこそ湿度や天気にもものすごく敏感。演奏家本人たちもその日の楽器の状態で、その場で思いついたものを即興でやってみたり……そのようなことがバロックの醍醐味ですね。

水内:アンサンブルで演奏していると、楽器同士で会話をしているような、そんなやりとりが面白いんです。聴いてくださる方も、会話のような演奏を感じていただけたらと思います。

—今公演で演奏するのはどのような音楽でしょうか？

村上:バロック時代は100年以上にわたって、ヴィヴァ

ルディやバッハなどはバロック後期の作曲家です。今公演ではもっと前の、彼らに影響を与えたバロック初期の音楽を演奏します。

その時代がなかったら、ヴィヴァルディたちの音楽は生まれなかったかもしれません。

水内:バッハやヴィヴァルディ、ヘンデルを知っている方が聴くと、そこにつながるものを感じ、きっとワクワクしていただけると思います。

—今公演はオルガンと2台のチェンバロをジュリアンさんと村上さんと演奏されますね。

村上:1台での演奏は静かな良さがあり、2台になると打楽器的な盛り上がりを見せたり。そしてオルガンを入れて荘厳な雰囲気を出したり……。

二人の演奏者があちこちらに移動しながら演奏するので、目で見ても面白いと思いますね。

水内:3台目の鍵盤楽器を使った編成で生演奏を聴ける機会は、めったにないと思います。

—今公演のさらなる魅力をお聞かせください。

水内:終演後舞台上上がり、間近で楽器を見ていただけます。例えばチェンバロなんて、どうやって音が出ているんだろうと思う方も多いのではないのでしょうか。きっと新鮮に感じていただけると思います。

村上:当時の教会では、複数の合唱隊や楽団が離れた位置で演奏することがあったので、今回それを再現してみようと思っています。さくらプラザホールのような規模で、音響が良いところでないとなかなか成り立たない演奏方法なんですよ!

水内:僕はバロックを、人間の喜怒哀楽が詰まっている音楽だと思っています。

決して敷居が高いものではなく、誰もが「面白い」と感じていただけると思うので、ぜひたくさんの方に聴いていただきたいです。

—ありがとうございました!

(取材:兼井 由紀子、桑田 春花/文:桑田 春花)

さくらプラザホームページで、ハルモニア・レニスのメッセージ動画を公開中!



甘美なる イタリア・バロック
～バッハ・ヘンデル・ヴィヴァルディへの道～
2017年10月28日(土)14:00開演(13:30開場)

*詳細は裏表紙をご覧ください。



Pick Up Artist ④

名刀の名を借りやってくる！

トロンボーンカルテット 虎徹

4本のトロンボーンが奏でるパワフルかつ繊細な響き

10月25日に開催される名曲サロンでは、シリーズ初の管楽器が登場します。
ご出演いただくトロンボーンカルテット虎徹のメンバーである覚張 俊介さん、竹内 優彦さん、飯田 智彦さんの中から代表して、竹内さんに結成のきっかけや、トロンボーンの魅力をお聞きました。



—まずはグループ結成のきっかけについて教えてください。

竹内 優彦(以下、略): 大学を卒業した2013年3月に結成しました。もともと飯田さんと覚張さんとは別のカルテットを組んでいました。それに加えてまた新たにカルテットを組もうというタイミングで、飯田さんと仲の良かった私、覚張さんと仲の良かった太田さんの4人で結成したのが「虎徹」です。「虎徹」の由来ですが、江戸時代に作られた日本刀の名で、トロンボーンの前祖サクバットに「剣を抜く」という意味があることから名付けました。結成理由は、“才能があり、尊敬できる友人だから”というものでした。そして、男性だけのカルテットを組みたいと常々思っていたんです。切磋琢磨して意見を言い合える、居心地のいいグループですね。クラシックに偏らず、ポピュラーになりすぎず、いろいろな視点でお客さんと接する事ができるカルテットを目指しています。

—今公演で賛助出演される、小篠さんについて教えてください。

私も所属している「THE ORCHESTRA JAPAN」という団体と一緒に仕事をしている同僚です。メンバーのスケジュールが、どうしても揃わないときに出演を小篠さんをお願いすることが多いです。

—トロンボーンだけで作り出すアンサンブルの魅力をお聞かせください。

トロンボーンは数ある楽器の中でも一番人の声に近いと言われ、元は教会で合唱を手助けするために使われてました。主にハーモニーを作っている楽器なので、人の耳に柔らかく届き、聴きやすいというのが魅力のひとつです。また、クラシック音楽からジャズ、ポップスまで幅広く活躍することができる楽器なので、4本のトロンボーンで様々な

音色を吹き分けながら、演奏会を作り出せることも魅力です。クラシック音楽の公演だと、知っている曲が少なく、一般の方は難しく演奏会に行きづらい。反対に、簡単な曲ばかりでは、クラシックが好きの方は楽しめない、というようなことがあるかと思います。そうならないよう、どなたでも楽しめるようなプログラムを毎回メンバーで考えています。

—竹内さんが曲をアレンジしているそうですが、トロンボーンカルテット用に編曲するにあたり、大変だと感じることはありますか？

オーケストラの曲をトロンボーンだけで演奏すると、楽器の音色が限られてくるので編曲が難しいですね。人の声に近い音色なので、オペラや歌の曲をトロンボーンカルテットで演奏すると映えます。

—今回の公演の聴きどころを教えてください。

名曲サロンという事で、聞き馴染みのあるクラシック音楽を中心に集めました。竹取物語はトロンボーン用のオリジナル曲ですが、クラシック音楽の中でもポピュラーな位置づけの曲でもあります。日本の雰囲気で作られた曲で皆様が知っているフレーズもあるので、この曲を気軽に楽しんで頂けると嬉しいです。また、他の曲もどこかで聴いたことがあるような曲を選ぶ予定です。

少しでもトロンボーンの魅力が伝わるよう頑張りますので、ぜひお越しください！

—ありがとうございました。

(取材・構成:近藤 喬之、山上 由布子)



名曲サロン Vol.10
トロンボーンカルテット 虎徹が贈る
至福のひとつ
2017年10月25日(水)①11:30開演②14:30開演

*詳細は裏表紙をご覧ください。

好評
発売中

若水柔剛—台湾新水墨《後編》

文: 儒墨堂株式会社(日本)、
虎之助デジタル・テクノロジー有限公司(台湾)
社長 王 穆提
<http://www.rumotan.com>



若水柔剛

「台湾芸術家—連瑞芬」ホームページ: <http://juifen.rumotan.com/>

アジア・アート自体は、すでに現存している世界を意識して始まった。それはアートにおける理性の存在が原動力になった。台湾アートも創作においては理性の存在がメンタル面の中心となった。当時、アジア・アートが対象とするものは、純粹かつ理性的な創作の向上というものだった。

アート創作のための観察は理性に従い、自己存在、現実存在、本質存在を統合し、究極的には本質存在を確立した。しかし、理性的なクリエイター(芸術従事者)の作品の中から、クリエイティブな意識として個人的なメンタルな本質が現れ始めた。同時にあまりにも多く理性の観察によって、美学事象を追求するという直観的な発見本能を喪失し、事象を無意識に観察するという姿勢を失ってしまった。

こうした過程を経て、やがてアジア・アート・クリエイターは、事象を直観的に発見するという意識が芽生え始めた。このときのクリエイターは、自分のクリエイティブな本質のなかで真の主体が存在していることを理解した。

アジア・アート・クリエイティブ・スピリットは、単純な理性やクリエイティブな意識のなかで作上げたものから、自分自身を解放し、再構成するという必要性を痛感した。

その中で台湾アート・クリエイターは、それを実体と反実体に分け、しかもその実体をも解体した。さらにクリエイティブな意識の中の芸術性とはいかなるものかを分析し、芸術性の側面や、美学上の立場からクリエイティブな本質に迫る取り組みを行った。

クリエイティブな実体性、普遍的な本質性の追求を目指す一方で、個別化したクリエイティブを現実的存在として認識するようにもなった。このことは一見、作者と作品が対立しているような状況になるが、それはクリエイターの無限の媒介性と自己意識から生まれるものだからだ。

この自己意識の本質的な存在は、本来的にクリエイター自身と実体との統一体によって生まれるものである。

いま、こうした潮流がアジア芸術のクリエイター、とりわけ「台湾の書画のクリエイター」の趨勢となっている。

これは普遍的な本質であり、個別化したアートのリアリティーであり、純粹なアート・クリエイターのインスピレーションである。それは後者が浮上し前者が後退するともいえる。それは純粹化したアート・クリエイターの知恵であり、その知恵で実体に近づき、具体的な実行という形で具現化する。そこでは前者が後退し後者になり、アジア・アート・クリエイターが自分の作品と実体の統一体に挑み、創造によって自分の作品として具現化するようになった。

台湾の書画の創作は、自己意識の個別性の維持と同時に、個別性がまたアジア・アートの創作の全体の中で普遍的な理性的知識として感知され、純粹な理性の考えや活動が精神的な大きな流れになり、この大きな流れは多くの異なるアート作品によって、すべてのクリエイターの行動と存在を意識させた。

アート精神は、すべてのクリエイターの普遍的な自己意識として、その純粹な内在性を発揮し、または個別的な意識をもつ本質存在と現実存在が一つの統一体の中に存在させた。

アジア・アート・クリエイターが自分自身を現実的存在に向上させたのは、普遍的な理性的知識としての真理が本質的に容易に存在しているのを認識。敵対者とも言える非自己意識の媒材の応用のような手段を使用するのではなく、台湾の書画アートの創作において、かつてはアジア・アート・イメージが集団意識の形式を取ったことがあるため、一般的には個性の形式を取るようになった。

しかし、再認識の考えも台頭し、普遍的かつ抽象的な真理を見出せるとも自負していた。それらがすでに人々の間に認知され、アジア民族の生活のなかで自然に存在している真理であると考えられている。

そのため、これらの真理に基づいてアート作品を表現するのは、クリエイターの自己意識の再認識が自分自身にとって特有なものとなった。なぜならば偶然的な天然の美を凌ぐほど巧みなアート作品は、思慮とか慣習などに頼らない方法で生まれている。

このようにして試行錯誤・紆余曲折の創作活動によって、台湾書画アーティストは、古典、現代、当代などの創作手法を駆使し、アジア・アートの創作・発信を通じて、「平和への願い」を希求するという人類愛を世界に向けて訴えている。

さくらプラザギャラリーにて8月9日~14日に開催された「台湾新美術展」は、盛況のうちに終了いたしました。

『東へ西へ』

第9回 この町は、ここに始まる
～ツギヒコノミコトと失われた戸塚古墳群～

文・写真 田中啓介／画 大野愛



戸塚という地名の由来は、富塚八幡宮の富塚が転じたものと言われている。では、そもそも富塚八幡宮の富塚は何に由来するのか？



富塚八幡宮のHPにその歴史が記されているので引用する。

「山頂の古墳は富属彦命の墳堂と伝えられ、これを富塚と称し、戸塚の地名発生となったと伝承されています。」

富塚とは、八幡宮の裏山の頂にある富属彦命（ツ

ギヒコノミコト）のものと言伝えられる塚（古墳）に由来する。

そう、富塚八幡宮の裏山には古墳がある。古墳？！

その昔、この町にはいくつかの古墳があり古墳群を構成していたと言われている。富塚古墳は、後述する埋蔵文化財センターの調査によると5世紀ごろのものとのことなので、今から1500年くらい前、古墳時代が3世紀中頃から7世紀末くらいなので、古墳時代の中期には、すでに古墳に葬られるような権力者がこの地域に存在していたということだ。それは、ちょうど倭国、ヤマト王権が強化拡大し、日本を統一していった時代にあたる。

古墳時代の戸塚。なんとも歴史ロマンにあふれる話ではないだろうか。



しかし、残念なことにこの戸塚古墳群の古墳のほぼすべてが開発などにより破壊され、今はもうない。跡形もない。今ではもう、どこにあったのかも正確には分からない。わずかばかりの古墳を除けば、ただ、いくつかの古墳があったという歴史的事実だけが残されている。

埋蔵文化財センターの広報紙「埋文よこはま 23」によると、戸塚駅東口には大島山古墳があり、大坂下の辺りには坂下荒塚古墳があり、坂下荒塚古墳からは勾玉などが出土し鶴岡八幡宮に納められたと伝えられているとのことだ。

失われた戸塚古墳群の中で唯一現存しているのが、この富塚古墳。「埋文よこはま 23」には、2010年11月から12月に行われた富塚古墳の測量調査の報告が掲載されている。

詳しくは、「埋文よこはま 23」を見て、そして、ぜひ、この富塚古墳を訪れて実物を見てほしい。ただ訪れるよりも、「埋文よこはま 23」を見て、あるいはタブレットやスマホで見ながら訪れると形や歴史がよく分かるので数倍数十倍楽しい。

富塚八幡宮の裏山の鎮守の森のこんもりとした山肌。それが古墳だなんて、しめ縄が張り巡らされていなければ分からないような小山に富属彦命という1500年前にこの地を治めていた人が葬られている。

戸塚古墳群のほとんどが破壊され、富塚八幡宮の神域であったためにこの古墳だけが残った。破壊された古墳

を元に戻すことはできない。今、ここに残されている富塚古墳の幸運を、きっと、必ず、後世に残していかなければいけない。

レガシーは、ここにある。歴史的価値のあるものが、こんなにも私たちの身近にある。そのことに改めて気づかされた富塚古墳探訪。

この町は、ここに始まる。

「埋文よこはま23」 (PDF・全4ページ)

2011年2月28日

財団法人横浜市ふるさと歴史財団
埋蔵文化財センター編集・発行

https://www.rekihaku.city.yokohama.jp/cms_files_mabun/pr_brochure/myo23.pdf



富塚八幡宮

横浜市戸塚区戸塚町3827

《問合せ》

TEL: 045(871)2908

《公式ホームページ》

<http://www.tomiduka.net/>

・戸塚駅西口出口から徒歩約13分

・バス停「大坂下」より徒歩



田中 啓介
Keisuke Tanaka

(株)神奈川共立 施設管理部長。神奈川県公立文化施設協議会幹事(事業副委員長)。横浜市区民文化センター(市民プラザ)館長会議議長。(株)ジェイコム南横浜(旧JCN横浜)放送番組審議会委員(2013-2016)。STスポット、栄区民文化センター、広島県三原市芸術文化センター、戸塚区民文化センターにおいて館長兼事業プロデューサーを歴任。



大野 愛／画家
Megumi Ohno

横浜生まれ、横浜在住。風景画をメインにシマシマ油彩画を制作。Ai名義で日本画も手がける。

《個展》

2016.10月 「また来む秋は」 ミーツギャラリー(銀座)

2016.4月 「星の手向の」 JazzSpot J(新宿) etc...



連載リニューアル3回目!今回はなんと!夏の特別編として7月28日に開催されたTHE LEAPSのワンマンライブ「絶対に負けられない戦いが横浜にはある!!!」のライブレポートをたっぷりお届けします!

場所は戸塚区のご近所、中区・日ノ出町にあるライブバー「クラブセッション」。THE LEAPSにとって、少し久しぶりになるワンマンライブ。ワンマンライブは会場を移して2度行われるのですが初日はやはり……二人の地元・横浜での開催となりました。(次回は9/24に渋谷で!)チケットは嬉しいソールドアウト!!!

PM7:00を少し過ぎた頃、いつもの通り革ジャンに袖を通したスタイル(夏は我慢大会笑)のTHE LEAPSがステージに登場。でも、いつもとちょっと違うのは……「宣誓〜!!!我々THE LEAPSはロックンローラーシップに則り、正々堂々とこのワンマンライブを成功させる事を誓います!」と、まずは選手宣誓からスタート。

そこからはおなじみのナンバーからちょっと久しぶりの曲まで……怒涛のリープス・サウンドのオンパレード!途中の「ハーフタイム」と称されたコーナーでは惜しくもセットリストのスタメンから外れ、ベンチ入りしている(笑)楽曲たちをくじ引きによって復活させ、その場で演奏するコーナー(何が出るか分からない……)も!



そして後半戦、THE LEAPSの新曲「OH!嫉妬」が披露される前に「曲のイントロでタオルを掲げてみてください!そうすると一体感が増しますので」というアナウンスが……。そして演奏が始まると……あれ!?このイントロ……世界中の人が歌えるアイダの「凱旋行進曲」……!?(タイトルを見て「?」の方は是非検索してみよう!)

全17曲演奏しきってからのアンコールではなんと!架空のサッカーチーム「FCリープス」のユニフォームを纏った二人が登場。……ここまで読んでくださった方はもうお分かりかもしれませんが、THE LEAPSは何事も形から入るタイプなのです(笑)。



ここでも新曲「アイラブミュージック!!!」を初披露。そして最後はさくらプラザ・ホールで撮影したミュージックビデオでもおなじみの「THE LEAPS」でメ!

ライブバーという場所もあり、お酒片手にゆっくりと楽しむ方や、スタンディングライブと同じようにノって聴いてくれる方など、様々なスタイルで楽しむ姿が印象的だったワンマンライブ横浜編。ホームという事もあって「勝ち点3」をもらえる試合(ライブ)内容だったとの感想も飛び出しました。THE LEAPSは「絶対に負けられない戦い」に向けて戸塚区から羽ばたきます!!!



THE LEAPS(ザ・リープス)
横浜市戸塚区出身・Gt&Vo.MAYOUとDr&Vo.NANA-Aの幼なじみ同士からなる2ピースバンド。9月24日(日/昼)にはワンマンライブ東京編を渋谷CLUB CRAWLにて開催!
■オフィシャルホームページ <http://theleaps.net>



LES TIMBRES & HARMONIA LENIS 水内謙一のヨーロッパ演奏紀行



皆さまこんにちは! 私たち「レ・タンブル&ハルモニア・レニス」の演奏会がいよいよ10月28日となりました。連載最終回の今回は、インタビュー(P.6~)ではお話ししきれなかった、メンバーの魅力についてお伝えしたいと思います。個性にあふれた5人それぞれのキャラクターは……

- ★ミリアム・リニョル(ヴィオラ・ダ・ガンバ)
常に新しいことに目を向けていくチャレンジャー。日本語も勉強して少し話せるので、コンサート後にはぜひ話しかけてあげてください!
- ★ジュリアン・ヴォルフス(チェンバロ&オルガン)
鍵盤楽器オタクで、時間を忘れて好きなことに打ち込むタイプ。どんなに忙しいときでもイライラしない、気長な好青年!
- ★村上暁美(むらかみあけみ/チェンバロ&オルガン)
好奇心が強く自由奔放なアイディアマン。感受性が豊かで直感で動くタイプ!
- ★川久保洋子(かわくぼようこ/ヴァイオリン)
天真爛漫で無邪気な元気娘。裁縫が得意で、演奏会に必要な小道具があれば手作りしてくれます。
- ★水内謙一(みずうちけんいち/リコーダー)
マイペース人間でしょうか……(笑)? 自分のことを言うのは難しいですね……。はたしてその通りかどうかは、コンサートでお会いしたときに皆様にご判断いただければと思います!

2016年ヨーロッパツアー終了翌日…「今からカヌーへ行きます!」



(写真左より)ジュリアン・ヴォルフス、村上暁美、川久保洋子、水内謙一、ミリアム・リニョル

メンバー皆仲が良く、毎年のツアーでは1カ月もの間行動を共にしますが、一度も喧嘩をしたことがありません。また、演奏会を良いものにしようという思いが皆とても強く、プログラムにも工夫を凝らして、常に新しいことにチャレンジしています。今回のさくらプラザでの演奏会にもいろいろなサプライズがありますので、ぜひお聴きいただけましたら幸いです。コンサートで皆さまにお会いできることを楽しみにしています!

甘美なるイタリア・バロック 2017年10月28日(土)14:00開演(13:30開場) *詳細は裏表紙をご覧ください。

吹奏楽の達人



暑い、そして熱い夏
前回までの2回で『吹奏楽とトランペット』、そして『2人の恩師』との出会いについてお話ししてきました。本来ならいよいよ3人目の恩師との出会いの話をするところですが……。暑い夏といえば吹奏楽の甲子園とも言うべく吹奏楽コンクールの季節ですね。中高生や大学、一般の吹奏楽愛好家の間で熱い戦い!?(熱演)が繰り広げられています。そこで私の話は次回に回すとして、今回はコンクールに熱中している吹奏楽愛好家の皆さんに私からもエールを送りたいと思います。と言ってもこの回の刊行は夏の終わりでしょうか(^^;

私はこの夏もいくつかの地域で吹奏楽コンクールの審査員をさせていただいています。毎年感じていることを少しだけお話しします。コンクールというのは審査員による順位がつき、金・銀・銅賞や優秀・優良等の評価が結果として残されます。もちろんコンクールに参加する以上、結果にこだわり勝ち進みたいのは当然のことですね。やはりコンクールで少しでも良い成績を修めたい想いで一生懸命に練習に励み、技術を磨くことは本当に大切なことだと思います。何よりモチベーションが上がります。私も中学、高校時代死に物狂いで一生懸命練習したことを思い出します。

ただ、いくら技術があっても、音楽で最も大切な表現力が乏しくは聴衆には何も伝わりません。より幅広い表現をするために技術を磨きたいものです。オーケストラや吹奏楽はかなりの人数で一つの音楽(楽曲)を作りあげるわけですから、そこが何より楽しい。みんなで色々表現について考えたり想像したりしながら演奏する喜びがその醍醐味ではないでしょうか。高校時代の恩師である中澤先生の言葉『音楽は心!』この中には表現をする喜びや難しさが含まれているのです。Let's enjoy music!(つづく)

トランペット奏者 杉本 正毅
Masaki SUGIMOTO



TBS系ドラマ「仰げば尊し」モデルである神奈川県立野庭高等学校卒業後、東京音楽大学で津堅直弘氏に師事。東京吹奏楽団で演奏する傍ら日本の主要オーケストラやミュージカル等、また海外アーティストのツアーでも演奏活動をしている。現在、東京吹奏楽団トランペット奏者、洗足学園音楽大学、上野学園大学各講師。日本トランペット協会常任理事。ナカザワキネン野庭吹奏楽団音楽監督。

男は背中 は物語る

トツカミカエリオヤジ
戸塚見返親仁

其之
二十六

商店のご主人など、戸塚区内で働いている
オヤジ世代をご紹介します。

最近意外と見つけるのが難しい
金物屋さん「渋谷商店」。
ご主人の渋谷さんにお話を伺って
きました。

しぶや やすゆき
渋谷商店の渋谷 康之です！



顔見世

一商店の創業はいつ頃ですか？

戸塚に来たのは祖父の代からです。戦後に箱屋を営み、昭和40年代に金物屋になりました。

一店頭で書かれている包丁研ぎについてお聞かせください。

お預かりから仕上がりまで1週間程度お時間をいただきます。毎週水曜日に職人さんが引取りに来てくれるので、火曜にお預かりすれば最短の1週間で渡すことができます。

一どのくらいの頻度で研ぐと良いのでしょうか？

半年毎くらいに1本ずつ依頼される方が多いです。今お願いしている職人さんはとても腕が良く、包丁以外に各種ハサミも研いでくれますよ。

一安いステンレス製やセラミック製の包丁は…… さすがにお願いできないですよね？

安いものでも研げますよ。そのかわり職人さんから「次は買った方が安いよ」と言われるけれど、セラミック製の欠けたものを実際に研いでもらいましたよ。

一セラミックも研げるんですか！？ 私も欠けた時に相談すればよかったです。

相談してくればお答えしますよ。それが昔ながらの店ついでものでしょ。今は通販もあるけど、いざ届くと使い勝手が悪くてお蔵入りしちゃってことがありますよね？
道具って人によって使い勝手の良さが違うから、やっぱり一度は現物を触ってみてから買ってほしいよね。
一生ものでもお手頃なものでも、「こんな品物がほしい」と言われれば、うちのお店になくても取り寄せたり、他のお店を紹介もします。できればうちのお店で買ってほしいけど(笑)。

一今後は私も相談させていただきます！

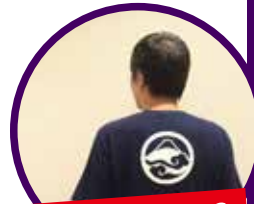
親に逢いに行こう！

渋谷商店

横浜市戸塚区戸塚町16-1 トツカーナモール2F

TEL:045-881-2249

営業時間 10:00～19:00 定休日第1・3日曜



次号の親仁は・・・？

哀愁漂う後ろ姿から何処の親仁さんだろうと想像してみてください。次号では見返りポーズで顔を公開します！



戸塚区民文化センター
さくらプラザ

※応募用紙・詳細はチラシもしくはホームページをご覧ください。

アートバザール 2018

さくらプラザ利用団体、アーティスト、区民…
新たな出会いが生まれる3日間！

さくらプラザで行われている様々な活動を紹介し、
利用者・アーティスト・区民の文化的交流の場を創出する
ためのイベントです。



- 応募資格
- 募集締切
- 結果通知

横浜を拠点として活動を行っている個人・団体
2017年10月31日(火)必着
2017年11月初旬までに、代表者に郵送いたします。
※応募者多数の場合は書類選考となります。

主催事業参加募集

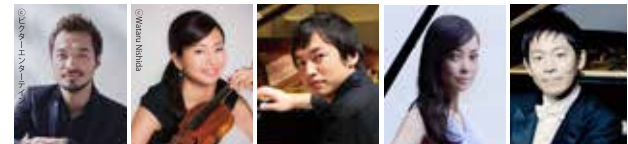
ご応募お待ちしております！

ピアノグランプリ 2018

揺さぶれ！魂のピアノ！～人生の深淵から溢れだす音楽の力～

横浜から世界へ、音楽の力を伝える
新たな才能と出逢う30歳以上限定のピアノオーディションです。

◆審査員



大萩 康司 奥村 愛 加藤 昌則 三浦 友理枝 山本 貴志

■賞与 【グランプリ】1名 表彰状/賞金40万円
【優秀賞】1名 表彰状/賞金10万円
(さくらプラザ主催受賞記念リサイタルへの出演料を含む)

■応募資格 国籍不問
2018年1月20日(土)時点で満30歳以上の方。
■募集部門 ピアノ(ソロ・連弾などピアノのみによる演奏)
■使用楽器 スタインウェイ D-274
■課題 自由曲1曲/演奏時間:10分以内
■審査指標 楽曲の深い理解と新たな解釈など既成の概念にとらわれない卓越した演奏技術と豊かな表現力を有し、聴衆の心を打つ感動的な演奏であること。
※アコースティック演奏のみが対象です。

■審査構成 予選(演奏録音物及び書類審査)、本選
■募集期間 2017年9月15日(金)
～2017年11月30日(木)必着

■本選/表彰式 2018年1月20日(土)10:00～18:00
■記念リサイタル 2018年度 ※受賞者と調整して決定
■本選会場 戸塚区民文化センターさくらプラザ ホール
■参加料 ○予選:無料 ○本選:5,000円
■審査方法 ○予選(非公開)
本選出場者を決定するため、提出されたCDの演奏録音物及び書類審査を行います。
結果は、可否に関わらず結果通知書を12月20日(水)までに発送します。
※提出する演奏録音物は、本選演奏曲を収録したCDとします。
○本選(非公開)
自由に選択した1曲(10分以内・予選と同じ曲)の演奏を審査します。

ホール(舞台)募集要項

- 会場 戸塚区民文化センターさくらプラザ ホール
- 開催日時 2018年2月24日(土)14:00～16:00
1団体につき15分間(準備・撤収含む)
- 募集ジャンル 音楽(マイク・アンプ類を使用しない生演奏のみ)
※クラシック、ジャズなどジャンルは問いません。
- 参加費 1団体5,000円
- 募集団体数 8団体(出演者は1団体10名程度まで)
※さくらプラザ推薦団体も含まれます。
- 設備 音響反射板、スタインウェイ(D-274)、譜面台、照明(コンサート明かり)

ギャラリー(展示)募集要項

- 会場 戸塚区民文化センターさくらプラザ ギャラリー
- 開催日時 2018年2月22日(木)13:00～17:00
23日(金)10:00～17:00
24日(土)10:00～16:00(3日間)
- 募集ジャンル 絵画、写真、書道、手工芸などジャンルは問いません。
- 参加費 1,000円/1,500円
※ブース毎に異なりますので、チラシもしくはホームページをご確認ください。
- 募集団体数 12団体
- 設備 机1台、折り畳み椅子2脚、展示用ワイヤー・フック(各ブース10点まで)

TOTSUKA JOURNAL

出張! 戸塚新聞

webマガジン「戸塚新聞」の出張版。戸塚区のディープな情報を鋭意取材中! 詳しくは「戸塚新聞」で検索!

#10 嗅 地域住民とのワークショップを通して完成 紡ぐCAFE

戸塚駅西口から歩くこと10数分。「紡ぐCAFE&SOMETHING」何やらとてもお洒落なカフェができています…
その情報をつかんだ主婦ライターが、取材に行きました。今年の4月にOPENしたばかり。嬉しいことに戸塚にも大人女子に使いやすい、雰囲気のあるカフェが増えつつあるよう。
しかし、ここは単なるオシャレCAFEにらず。
“世代をつなぎ、地域をつなぎ、

その関係を丁寧につむいでゆくことができたなら、どんなにすてきなことだろう。”
※カフェのフライヤーより
カフェとしての営業だけでなく、ワークショップやイベント開催等、地域交流の役割を担っていくことを想定して、つくられたお店です。
カフェは「グレイブスシーズン戸塚」というサービス付き高齢者向け住宅の1Fにあって、そこのお住いの方々は建物内部にあるヒミツの扉から出入りで



今回取材したお店

紡ぐCAFE & SOMETHING

横浜市戸塚区戸塚町361-4
グレイブスシーズン戸塚1F
045-865-0057
11:00～18:00
定休日:月曜

…続きはwebで

戸塚新聞 紡ぐCAFE 検索

Information

「戸塚新聞」とは

戸塚区の情報満載のWebマガジン。知っているようで知らない「戸塚」の魅力的な情報を発信。戸塚新聞のすべての記事を読みたい人は「戸塚新聞」で検索!

戸塚新聞 検索





若林 顕セルフプロデュース
 ベートーヴェンピアノ・ソナタ 全32曲 ラストシーズン

Vol.21 9/29(金)20:00
 全席指定
 前売 2,000円/当日 1,500円
 学生 1,000円

《最終回》
 Vol.22 11/10(金)19:00 アンコール Vol.3
 全席指定
 前売 3,000円/当日 2,500円
 学生 1,000円



4年にわたるシリーズついに最終回!
 19時より2時間のプログラムでお届けします。
 ※各公演、前売券以外はさくらプラザのみでの販売となります。

結成30周年&最新CD発売記念

Trouvère Quartet Concert
 トルヴェール・クワルテット with 小柳 美奈子

9/8(金) 18:30
 全席指定 一般 3,000円
 横浜市民 2,500円
 学生 1,500円



ピアノグランプリ2017 受賞記念演奏会
 〜ルナーリア弦楽四重奏団とともに〜

《ピアノグランプリ2017 受賞者》
 堀江 明子、服部 貴美子、渡辺 まこみ
 ルナーリア弦楽四重奏団

10/9(月・祝) 14:00
 全席指定 1,000円



甘美なるイタリア・バロック
 バッハ、ヘンデル、ヴィヴァルディへの道
 レ・タンブル&ハルモニア・レニス

10/28(土) 14:00
 全席指定 一般 3,000円
 ペア 5,000円
 学生 1,500円



東京六人組コンサート
 室内楽の調べ

11/5(日) 14:00
 全席指定
 一般 3,000円
 横浜市民 2,500円



秋のさくらプラザ寄席 第2回

五人の真打による
 庚寅長月の会 戸塚公演

11/12(日) 13:30
 全席指定
 一般 2,500円
 横浜市民 2,000円



名曲サロン シリーズ

Vol.10 トロンボーンカルテット 虎徹が贈る
 至福のひととき

10/25(水)第1回 11:30/第2回 14:30
 全席自由 800円 会場:リハーサル室



鈴木理恵子 室内楽シリーズ Vol.7
 ヴァイオリン、ピアノと
 弦楽四重奏のコンチェルト!

鈴木 理恵子(Vn)、若林 顕(Pf)、
 レスパス弦楽四重奏団
 12/16(土) 14:00
 全席指定 一般 2,500円
 ペアチケット 4,500円/学生 1,000円



Ticket さくらプラザ電話予約
 9/20(水)14:00~
 *窓口販売は翌日9:00から

Vol.11 洗足学園音楽大学 コールファンタジア
 〜心あたたまる午後ひととき〜

12/3(日)14:00
 全席指定 一般 1,500円/学生 1,000円
 会場:ホール



Ticket さくらプラザ電話予約
 9/14(木)14:00~
 *窓口販売は翌日9:00から

夢いっぱいシリーズ Vol.5

ハッピーるんるん 親子であそぼ♪コンサート
 11月号

竹田 えり(作曲家・歌手・声優)
 11/17(金) 第1回 10:15/第2回 11:30
 全席自由 300円
 (0歳より有料)



Ticket さくらプラザ電話予約
 9/22(金)14:00~
 *窓口販売は翌日9:00から

30歳以上限定のピアノオーディション開催!

ピアノグランプリ 2018

参加料 予選:無料/本選:5,000円
 開催日程 本選 2018. 1/20(土) ※非公開
 賞与 【グランプリ】賞金40万円 【優秀賞】賞金10万円
 ※副賞 受賞記念リサイタルへの出演
 応募締切 11/30(木) 必着



*詳細はチラシもしくはホームページをご覧ください。



夢いっぱいシリーズに毎回参加しています。
 竹田えりさんの素敵な歌声や、スタッフの方々の優しい気遣い
 もあり赤ちゃん連れでも気兼ねなく楽しめます。
 0歳からゆったりと楽しめる音楽のイベントはなかなか少ない
 ので、これからは是非続けていきたいです。
 【ペンネーム: はまっこさん】

掲載された方には、お好きなさくらプラザ主催公演
 チケット*をプレゼント!

*ご要望に沿えない場合もございます。あらかじめご了承ください。

- 氏名 ●掲載用ペンネーム ●ご住所 ●お電話番号 を必ず記載の上、
 郵送もしくはメールにてお送りください。
- ※ご記入いただいた個人情報は、当コーナーの目的以外には使用いたしません。
- ※200文字程度におまとめください。
- ※誌面の都合上、原稿を一部修正させていただく場合がございます。